

平成 19 年度 授業改善推進プラン

教科名

国語

〔学校全体の課題〕

平成 18 年度東京都教育委員会児童の学力向上を図るための調査結果より

観点	本校正答率	台東区平均正答率
関心・意欲・態度	100.0%	94.1%
話す・聞く能力	85.2%	81.1%
書く能力	53.7%	66.2%
読む能力	66.7%	61.8%
言語についての知識・理解・技能	74.1%	71.2%

上記の結果と、日頃の授業での実態を踏まえ、本校の課題は以下の通りです。

発達段階に応じた話の聞き方が徹底されていない。

(例 1 年生...話を最後まで聞く。

5 年生...話し手の意図を考えながら聞く、など)

物語文・説明文の読み取りが苦手である。

漢字の読み書き(2~6 年)や助詞の使い方(1 年)が苦手である。



〔学校としての改善策〕

教師の話や友達の発表を、目的をもって聞く(最後まで聞く、大事なことは何かを聞き取る)場面や、相手を意識して聞く(分かるうとして聞き取る)場面を、意識してつくっていきます。声に出して読むこと(音読)をより一層深め、校内発表の機会をつくります。

おはようチャレンジや国語の時間の漢字練習で、TTや個別指導を計画的に行っていきます。漢字検定の受検を奨励していきます。

学年ごとに基礎基本チェックリストを作成し、累積的に活用していきます。

国語の授業の開始時に、短時間でも毎日文字指導を継続していきます。

一人学習の際に分かったこと・気付いたこと・疑問に感じたことなどをノートに丁寧に書かせ、その上で他の子供たちとの意見交流を通して読み取る力と表現する力を高めていきます。

平成19年度 授業改善推進プラン

教科名

社 会

[学校全体の課題]

平成18年度東京都教育委員会児童の学力向上を図るための調査結果より

観点	本校正答率	台東区平均正答率
関心・意欲・態度	98.2%	95.6%
思考・判断	84.2%	86.6%
資料活用技能・表現	76.3%	75.5%
知識・理解	82.9%	85.8%

上記の結果と、日頃の授業での実態を踏まえ、本校の課題は以下の通りです。

地図やグラフからの読み取りが苦手である。

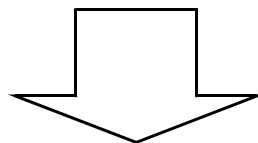
知識や情報と資料を比べることが難しい。

資料を見てじっくり考え、判断することが難しい。

日常生活に目が向いていないため、学習する内容を身近な事象として捉えることが困難である。

基礎的・基本的な内容の知識が定着していないことが、資料活用能力に影響を及ぼしている。

思考力を要する問題が苦手である。



[学校としての改善策]

資料の題名などの基本的な事項をまず押さえさせ、分かることを発表したり、資料を見比べたりする活動を取り入れ、授業において資料の基本的な活用の仕方を指導します。

資料を基に、気付くことや分かることを見つけて、自分なりの表現で新聞やレポートにまとめる学習を多く取り入れ、意見交換を行っていきます。

表やグラフ、地図など、様々な種類の資料を活用した学習を展開します。

ニュースや新聞記事の話をする中で、社会に興味をもたせていきます。

体験や見学、具体物を通して導入の段階で児童をひきつける授業をします。

知識・理解について1単位時間の最後に必ず確認し、次の時間の最初に前時の学習を振り返る時間を設定します。

こまめに小テストを実施し、知識・技能を確認する場を設けます。

日本地図・世界地図や地図記号など、各学年の知識事項は常時教室に掲示します。

地名や人物名は、漢字で書く指導をします。(国語の書く力との関連)。

平成19年度 授業改善推進プラン

教科名

算 数

[学校全体の課題]

平成18年度東京都教育委員会児童の学力向上を図るための調査結果より

観点	本校正答率	台東区平均正答率
関心・意欲・態度	93.0%	90.8%
数学的な考え方	73.7%	77.3%
表現・処理	83.0%	81.6%
知識・理解	76.3%	75.6%

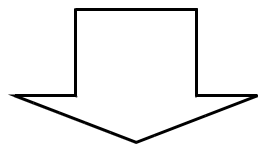
上記の結果と、日頃の授業での実態を踏まえ、本校の課題は以下の通りです。

既習事項を活かしながら、新しい課題を解決していく経験が乏しい。
課題解決に向けて、念頭操作を行いながら図や数直線等に表すなど、論理的に解決方法を考えることが難しい。

図形領域に関する操作能力に課題がある。

学習内容の習熟度に関して、十分習熟している児童とそうでない児童との個人差が大きい。

TT指導や習熟度別指導の指導体制に改善の余地があり、指導体制にあった指導計画の作成が急務である。



[学校としての改善策]

授業前に必ずその時間の学習内容及びねらいを板書します。

一単位時間の授業を「課題把握 自力解決 学び合い まとめ 振り返り」という進め方で行います。

操作活動を多くするとともに、自分の考えを説明できるように絵や図、数直線に表す方法の指導を工夫していきます。

図形領域の操作活動に関しては、算数以外の教育活動でも日頃から取り組んでいきます。また、操作に習熟できるように反復学習を繰り返し行います。

数と計算領域を中心とした基礎的事項に関しては、朝学習や放課後学習の時間も活用しながら反復学習を行ったり、個別指導を行ったりしてどの児童も身に付けることができるようにしていきます。

各学年ごとに基礎・基本チェックリストを作成し、段階的かつ累積的に活用していきます。

学年・単元ごとに指導体制についての年間指導計画を作成します。

平成 19 年度 授業改善推進プラン

教科名

理科

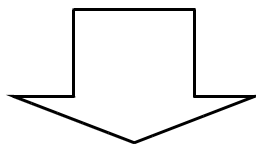
[学校全体の課題]

平成 18 年度東京都教育委員会児童の学力向上を図るための調査結果より

観点	本校正答率	台東区平均正答率
関心・意欲・態度	100.0%	96.8%
科学的な思考	68.4%	73.0%
技能・表現	77.9%	72.5%
知識・理解	72.8%	66.0%

上記の結果と、日頃の授業での実態を踏まえ、本校の課題は以下の通りです。

都の学力調査の結果を見ると、関心・意欲・態度の数値ほぼ100%と高い。科学的思考については区の平均より4.6%下回っている。既習事項をもとにして自然科学の法則性を類推していき、それを他に当てはめて考えていく力が弱い。生物とその環境の知識・理解の平均が低い。継続的な観察・実験を通して規則性を導き出したり、正確にデータを出すための実験条件を揃えたり、等改善の必要がある。科学を楽しく学びながら自然科学の法則性を身に付けていく授業方法の改善の必要がある。



[学校としての改善策]

理科についての知識・理解を確実に身に付けさせるために、TT 指導体制をさらに生かし、きめ細かい支援をしていきます。

観察・実験の前には必ず理由を明確にした予想を立て、その予想の結果が実験ではっきり分かるように、児童実験や教師実験を行います。

実験・観察したことを自分でノートにまとめられるように指導します。

個々の児童が主体的に問題解決を進めるために、問題に選択肢を入れて何を聞かれているのかをはっきりさせ、学習を進めていきます。

観察・実験の成果や学習内容が日常生活にむすびつくように指導したり、科学的読み物や視聴覚教材を取り入れて理科学習に興味をもたせていきます。

学習した知識を忘れないように、身近な生活に活用させていく場面を作っていきます。

平成 19 年度 授業改善推進プラン

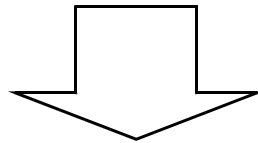
教科名

生活科

[学校全体の課題]

植物の世話を継続的に行うことができる児童が少ない。
(授業中に観察する以外、植物の様子を自発的に見に行く児童が少ない。)
意欲の継続性をもたせることが必要である。

気付き、感想を豊かに表現できる児童が少ない。



[学校としての改善策]

視覚に訴える掲示物を工夫し、日頃から植物に目を向けられるよう積極的に声かけを行っていきます。

発問や課題提示の工夫を行い、様々な方法で表現できるような支援をしていきます。

(絵・文章・発表・つぶやき等々)

平成 19 年度 授業改善推進プラン

教科名

音 楽

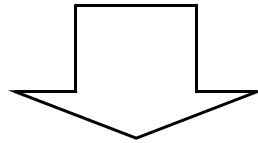
[学校全体の課題]

合唱や合奏の体験を通して、音楽をより身近に感じ、音楽をつくる喜びを味わうこと。

美しい音、よい音、よい響きを聴き取って、それらのよさを感じながら表現すること

音符や記号の基礎的理解および鍵盤ハーモニカやリコーダー、その他の楽器の基礎的な技能を定着させること。

身の回りにある音楽に興味をもち、音楽経験を生かして生活を豊かにすること。



[学校としての改善策]

音楽朝会を通して全校が一体になり、響き合いを味わえるようにします。音楽で音楽室に迎え入れ、一単位時間に合唱・器楽・鑑賞等を取り入れるなどして工夫していきます。

発表の場に向けて合奏・合唱に取り組むことで、よりよい音楽の表現や基礎的な発声法や合奏技能が身に付くようにします。

小テストや感想ノートなど、評価の工夫を行い、基礎・基本が定着するようにします。

ペアやパートで教え合ったり、個別指導の時間を設けるなど、学習内容に合わせて弾力的に学習形態を工夫していきます。

児童の実態を踏まえながら、学年に応じて合唱曲や合奏曲を 1 ~ 2 曲演奏できるようにします。

平成19年度 授業改善推進プラン

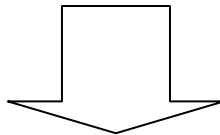
教科名

図画工作科

< 学校全体の課題 >

自他の活動の認め合いや振り返りができるように、授業の中で作品の紹介や鑑賞活動を取り入れている。さらに継続し、自分や友達の活動や作品を認め、イメージを広げ、取り組めるようにすることが課題である。

既成の概念ではなく、諸感覚器官を刺激し、造形活動をさせることが課題である。



< 学校としての改善策 >

○作品の紹介や交流の機会を多く設ける。話し方や聞き方を専科授業でも気を付けて指導していきます。

作品を校内に展示することにより、展覧会や日常生活の中で鑑賞活動を楽しめるようにします。そして、一人一人の児童の多様な表現が認められるようにしていきます。

○既製のものにとらわれず、素材とかかわりながら、感じたことを自分らしく表現できるようにします。

安全に使えるように、道具の経験の積み上げや、道具の整理整頓・片付けについて、くり返し指導をしていきます。

平成19年度 授業改善推進プラン

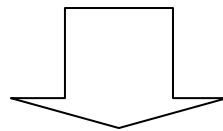
教科名

家 庭 科

< 学校全体の課題 >

調理実習や生活に役立つ小物づくりなどの体験を通して、いろいろな器具、機械、道具などが安全に使えるようにし、一人一人が自分のできることを増やすのが課題である。

学習を通して、心づかいや相手の気持ちについて、心の部分を意識させるのが課題である。



< 学校としての改善策 >

○家庭や社会での実践力や自信につなげるために、既習の学習をくり返し学べるように組み入れていきます。

○グループ学習や家族や家庭とのつながりを考えさせることを通して、人と協力する楽しさ・つながる大切さ・社会への関心を意識させていきます。

話し方や聞き方について家庭科の授業でも、気を付けて指導していきます。

平成19年度 授業改善推進プラン

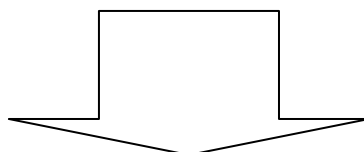
教科名

体 育

< 学校全体の課題 >

学校全体として体育学習を意欲的に楽しみながら行うことができている。しかし、並び方や移動などの集団行動や学習のめあてにそった活動ができていないこともある。けじめのある生活や態度を、体育学習を通して身に付けさせていく。

児童の中には不規則な生活の影響で、体調があまりよくない児童がいる。運動を日常化させていくことで生活リズムを整え、健康的で気持ちのよい生活を送らせることができると考える。学校生活の中で、目標をもたせ、楽しく運動できる機会を多く設けることで、自ら進んで運動することができる環境作りを進めていく。



< 学校としての改善策 >

「一週間の始まりに体と心を目覚めさせ元気に過ごす」「正しいラジオ体操を身に付けていく」というねらいのもとに週に一度、ラジオ体操を行っています。また、ラジオ体操を行う前後に、「気を付け」や「体操の隊形にひらく」などの集団行動も行い、全学年の徹底に努めています。このように体育的活動を通して、当たり前のことを当たり前に行うことができる、けじめのある学校づくりを行っていきます。

スポーツテストや日常の授業の中で、体力及び運動能力を測定し、個人のデータを有効に活用しながら、個々に応じた指導をしていきます。また、記録を毎年更新していくことで、意欲を高め、運動する喜びを味わわせていきます。また、一単位時間のねらいや学習の流れを明確にし、子供が主体的に活動できるような授業を行います。

体育朝会や休み時間における体育的活動を時期や方法、内容をしっかりと計画（持久走や長縄、短縄など）し、児童が自発的かつ継続的に行える環境をつくります。昨年度は、千束ランRUNフェスティバルというミニマラソン大会を開催し、体力の向上を図りました。今年度も保護者や地域の方にもご協力いただき、「全員が完走する」という目標を立て、カード等を利用し、意欲や関心を高めながら行っていきます。